

塩谷郡市医師会だより

平成20(2008)年2月19日 第51号

社団法人 塩谷郡市医師会 さくら市桜野 1319 番地 3 さくら市氏家保健センター内 Tel 028(682)3518

...平成19年度臨時役員会

...塩谷地区の医療を守ろう

...平成19年度第4回役員会

...特別寄稿 「バングラデシュでのボランティア活動」

平成19年度臨時役員会

平成20年1月18日(金)午後6時30分より
さくら市氏家保健センター医師会事務室にて開催された。

出席者：尾形会長・小林副会長・戸村副会長・後藤
軽部・奥山・根本・岡・本間・尾形新・植木
阿久津博・川原事務長 (敬称略)



議題1 「塩谷総合病院」の今後について

会長挨拶：昨年の暮れに、JA栃木厚生連が塩谷総合病院の経営から撤退するとの突然の新聞報道がなされた。急ぎ郡市医師会としての対応を検討する必要がある。今後、基幹病院としての機能が維持できなければ、地域医療は崩壊する。本日は「塩谷総合病院移譲問題」について緊急役員会を招集したので、忌憚のないご意見を伺いたい。

経緯説明：この度は会員の皆様大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

平成19年12月19日にJA栃木厚生連の最高意思決定機関である経営管理委員会が開かれた(院長はメンバーでない)。委員会において、3病院による運営では全体が立ち行かなくなるとの判断から、債務の最も大きい塩谷総合病院を分離移譲し、厚生連の命運をかけて経営改善に取り組むことが採択された。関係機関に報告した後に新聞報道の予定であったが、報道が早まったため、12月25日急ぎよ2市2町の首長、県知事、両大学病院、近隣医療機関に報告説明を行った。(奥山院長)

移譲先について

現在公的な2団体、私的な1団体から交渉の申し入れがあり、許認可権をもつ県が仲介し決定することになる。相手先については経営管理委員会メンバー以外非公開である。

県知事へは職員が再雇用されるよう要望している。夏頃までに選定する意向である。

医師確保について

派遣元の各医局へは平成20年度(平成21年3月末まで)は医師を引き揚げないよう強く要望している。また退職者を出さないよう院長の定年を1年間延長し続投を決定した。常勤医師の動向について、発表当初は動揺があったが少し落ち着いて来た。態度保留、様子見と推測している。

移譲先の決定が夏では遅すぎる。現状を維持していくには、平成20年3月頃には決定することが必要ではないか。遅くなると職員の確保が困難になる、など意見が出された。

看護学校の運営について

卒業予定者の処遇については他の2病院でも受け入れることなど責任を持って当たるよう要望している。平成20年度募集の学生についてもJA厚生連が責任を持つとの返答をもらっている。しかし、講師の確保など不安材料もある。

看護学校の今後の見通しについては、在学生、次期入学志望者に対してはきちんとした説明が必要である。一番先に対応すべきことであり、厚生連は無責任ではないか、など厳しい意見が出された。

郡市医師会の対応策について

今後の医師会の対応策について協議し、以下の事項について承認された。

1) JA厚生連への質問状提出

- ・ 撤退に至った経緯や財務状況
- ・ 移譲交渉先についての情報提供
- ・ 塩谷看護専門学校の取り扱いなど

2) 署名活動

できるだけ早い時期に開始すること

3) 塩谷総合病院対策委員会の設置

委員は会長一任、第1回会合は1月28日(月)

塩谷郡市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	阿久津博美 akutsuiin@crocus.ocn.ne.jp 戸村 光宏 mtomura@sirius.ocn.ne.jp	川原 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

議題2 その他

休日夜間こども診療室について

受診者は昨年秋まではやや減少していたが、年末年始は増加した（20名受診した日があった）。

医師会としては、平成21年4月以降も継続していく方針を確認した。

診療情報提供書（紹介状）について

他の医師会から、「紹介患者に対する返事が来ない」との苦情が2件寄せられている。医師会は病診、診診連携を進めているところであり、十分注意して対応していただきたい。

（文責：阿久津博美）

平成19年度第4回役員会

平成20年2月12日（火）午後6時30分よりさくら市氏家保健センター集団指導室にて開催された。出席者：尾形会長・小林副会長・戸村副会長・西山田・後藤・軽部・奥山・根本・岡・本間・尾形新植木・阿久津博・小島・仲嶋・川原事務長

J A 栃木厚生連理事長 鈴木宗男、同経営管理委員会副会長 椎名正二（敬称略）

尾形会長挨拶

塩谷総合病院移譲問題への署名活動を展開し、約35,000人の署名をいただいた。これは地域の基幹病院が無くなることへの住民の不安や叫びであり、県知事に届けたい。今後も医師会として積極的に取り組んでいきたい。

J A 栃木厚生連：経営移譲については医師会の皆様に大変ご迷惑をおかけしております。地域医療を支えるため病院を運営してきましたが、経営状況の悪化からやむを得ず撤退することとなりました。移譲先の選定については、公的な性格のものや大学病院を念頭に交渉しております。公開質問状への回答は、明日の経営管理委員会で承認を得て文書にて回答します。



左 鈴木宗男氏 中央 椎名正二氏

議題1 塩谷総合病院について

塩谷病院の勤務医は、今年6月には来年度からの勤務先を決めるという、移譲先が決まった時すでに残る先生がいないのではないかと。硅肺労災病院の例（移譲前に医師がやめる）もあり、できるだけ早い時期に移譲先候補を情報公開すべきだ。最悪、平成21年3月までに移譲先が決まらない場合は閉院するのか。基本方針は厚生連の運営だけを考慮しており、地域医療が崩壊する、公的支援を受けた病院の社会的責任はどうか。

今年も看護学生を募集しているが、講義や実習のめどがあるのか。行政や医師会の代表を加えた経営移譲委員会を設置するつもりはないか。広域行政に経営参加を提案したが、自治体には補助金や経営状況についての報告は一切なく、話にならない、財務諸表を開示してほしい。など、厳しい意見が出された。J A 厚生連からは移譲先と時期については公開できない、県知事に一任している、閉院することは想定していない、看護学校の移譲は考えていない、財務諸表は公開可能であるなど回答があった。

新たな情報はなく、危機的状況が再確認された。

（阿久津博）

議題2 役員改選について

会長より、3期6年が経過し一定の成果を収めた、4月には新しい役員を選出し運営を任せたいとの発言があった。現在、医師会は塩谷総合病院の移譲問題を抱え非常事態にあり、新しい執行部では対応できない、続投を検討してもらえないか（山田）との意見が出された。慰留についてはありがたいが、熟考の上返答をする（尾形）こととなった。

議題3 選挙管理委員会開催について

平成20年3月末、任期満了に伴い選挙となるため、選挙管理委員会開催が決定され、公示、立候補届出締め切り、投票日が決められた。（別掲）

議題4 平日の夜間診療について

第3回役員会にて、平日の準夜帯一次救急体制について2つの案が示され、県北3都市医師会合同会議において報告した。隣接医療圏では2次3次は積極的に受け入れる意向であるが、1次については塩谷医療圏での対応を期待している。しかし塩谷総合病院の問題から、休日こども診療室の当番が組めない状況に陥っている。平日の準夜帯診療拡大については、現状では困難との認識で一致した。

（阿久津博）

議題5 本年度の決算（見込み）について

平成19年4月1日～平成20年1月31日までの収

支計算を報告した。今後の入金予定もあり参考資料である。今年度から県医師会の会計ソフトが導入されたため科目設定が若干変わり、事業活動費は投資活動収支、財務活動収支などと名称が変更になった。(西)

議題5 その他

栃木県医師会役員選挙の公示がなされた。理事は西川侃介先生、幹事は小林正樹先生の推薦が報告された。3月の県医師会代議員会で承認される見込みです。

病診連携支援システム「連携くん」のバージョンアップについて、広域行政の補正予算(平成19年度)が承認された。早急に作業に取り掛かるよう指示している。

塩谷総合病院のよりよい移譲先早期決定のための署名活動は、おかげさまで37,590名(2/12)の署名が集まりました。ご協力有難うございました。

塩谷郡市医師会会長選挙について

投票日 4月5日(土)総会当日

公示 3月6日(木)

締切 3月22日(土)午後5時

立候補者は医師会内の選挙管理委員会にある用紙に記入し提出してください。

新年会

平成20年1月25日(金)医師会新年会が高根沢町元気あっぷ村-青海-において、会員23名が参加し開催されました。

尾形会長の挨拶のあと、高根沢医師団長の乾杯にて始まり、麒麟麦酒工場直送の生ビールをいただきました。

報告事項として、塩谷病院奥山院長より、「J A 栃木厚生連による塩谷病院経営移譲問題について経緯説明がありました。地域的な温度差があるが、救急医療体制崩壊を防ぐため会員の協力をお願いしたい。

続いて、眼科医の高橋雄二先生から「バン格拉デシュ・アイ・キャンプ」の報告(特別寄稿参照)岡先生から、江戸から明治にかけて医療関連の新たな古文書が発見され資料の整理に取り掛かっていることなど活動報告がありました。

会は盛会のうちにお開きとなり、新しく整備された宝積寺駅東口「ちよっ蔵広場」に場所を移し二次会となりました。本年も皆様のご健康とご発展をお祈り申し上げます。

(報告:阿久津博美)

塩谷地区の医療を守ろう

会員の先生をはじめ各方面の方々から頂いた署名は、おかげさまで37,950名に達しました。(2/14現在)

署名は2月20日に尾形会長と矢板市長で地域の切実な声を福田富一県知事に届けてまいります。

IN 矢板

1月30日(水)尾形会長、山田矢板市医師団長をはじめ塩谷総合病院の職員が寒空の下、塩谷総合病院玄関前で、

また、2月3日(日)にはベシア矢板店で雪が舞い散る中、会員、スタッフが病院の存続を訴えて署名を呼びかけました。両会場とも「病院がなくては困る」という住民の思いが伝わってきました。



塩谷総合病院玄関前にて



ベシア矢板店にて

IN さくら

さくら市医師団では、さくら市氏家公民館で開催された「国際太鼓フェスティバル」に合わせ、公民館入り口付近で街頭署名活動を行いました。

当日は小林塩谷郡市医師会副会長とさくら市医師団のメンバーや職員の方々、また塩谷総合病院の職員の方なども駆けつけ総勢16名が参加しました。当日は前日から降り始めた雪が降り続くあいにくの天気で人出が心配されましたが、太鼓フェスティバルの会場を訪れた市民の方は快く署名に協力してくれました。

この日、署名は298名分集まり、多くの市民に塩谷総合病院問題を知っていただけました。(報告 岡一雄)



<事務局より>

遠方の方がわざわざ事務局に届けてくださったり、次々と送られてくる署名を手にし、暖かな気持ちに支えられているのだと思いました。

【特別寄稿】

バングラデシュでのボランティア活動

たかはし眼科 高橋 雄二

2007年12月26日より12月31日まで、特定非営利活動法人国際エンゼル協会の協力のもと、バングラデシュでの白内障手術を主体としたボランティア活動に参加してきました。今回が8回目となるこのボランティア活動は、佐賀県で眼科を開業しておられる倉富彰秀先生がはじめられたもので、主に参加者の寄付金などで成り立っている事業です。今回は主催者の倉富彰秀先生、井上望先生、堀秀行先生と私の眼科医4人で行きました。

まずバングラデシュの眼科医療事情を簡単にご説明いたします。バングラデシュは、人口は日本と同程度で、面積は約2/5、(北海道の約1.7倍)です。90%がイスラム教徒です。バングラデシュ国内で失明者は65万~130万人いるとされ、このうち白内障が原因であるものが60~85%を占めていると言われています。今回のアイキャンプでは三千人をスクリーニングして、90人が白内障手術の適応があり、そのうちの74人が実際に手術を受けに來られました。昨年秋にあった洪水の後遺症の影響も少なく治安も比較的安定していました。ここの白内障は、日本ではほとんど経験することができないほど濁りが強いものばかりで、介助なしでは歩けないほどに視力がありません。それでも経済的な事情から医療機関にかかることができません。このような理由からこの事業の賛同者は、労働力のみならず、お金を寄付して眼内レンズや、手術器械などのお金に充てています。

さて、現地にはタイを経由してバングラデシュの首都ダッカに行きます。空港から外にでるとたくさんの方が柵越しにこちらを見ていて、多少怖い感じを受けます。道路では、自転車が引っ張っているリアカーのようなものが目に付きます。これをリキシャと呼び、語源は日本の人力車から来ています。私たちもリキシャを利用しましたが、料金は1キロ当たり15円程です。信号機などなく、交差点で動けなくなるとクラクションが鳴り響いています。

私たちの宿泊地には、孤児院が併設しており、たくさんの子供たちが出迎えてくれました。盛大な歓送迎会では、民族舞踊や、日本語のふるさとを合唱してくれました。手術、診察の合間には子供たちとふれあう時間を持つことが出来ました。子供たちは、みんな笑顔がよく、ダッカの空港で感じた人種や風習の違いからくる恐れが自然となくなってくるから不思議です。手術は、集会所を臨時手術室にして使います。最初は慣れない手術器具と環境にとまどいましたが、無事に行うことが出来ました。患者さんに手術に不安を感じさせないように簡単なベンガル

語を暗唱して手術しました。次の日の術後の診察は、眼科医として最もやりがいを感じることができるうれしいひとときです。バングラデシュの患者さんは、術前ほとんど見えなかった方が多いので、術後はたいへん喜ばれます。術前の診察や検査の際、この国の人たちはあまり感情を表情に出さない方が多いという印象を持ちましたが、回診では私の手を取って離そうとしない患者さんもおられ、良いことをしたな、という実感がこみ上げてきます。それとは対照的に、日本では最近白内障は手術で簡単に治すことができるし、手術のあとはよく見えて当たり前と思っておられる患者さんが多いようです。また、比較的視力がよいうちに手術を希望される方が多く、その分、術後の見え方の質の要求が年々高くなってきています。そのためか、術後にたとえ視力が1.2以上でいても患者さんの満足度は必ずしも高いとはいえなくなってきました。術前の視力が極端に悪いとはいえ、日本と違い術後に一様に非常に喜んでくださるバングラデシュの方々を診て、眼科医としての喜びを率直に感じることができ、たいへん幸せでした。

最後になりましたが、この活動に参加するに当たり快く承諾して下さった倉富彰秀、井上望両先生に、心からお礼申し上げます。

国際エンゼル協会では、里親、寄付、小学校を作るための募金を募集しています。

<http://www.angel-ngo.gr.jp/overseas/>

善意のみの団体なのでホームページにアクセス、連絡してみてください。また、国際エンゼル協会の現地責任者アジズル・バリさんの書かれた本(天使の舞い降りた国から:アートヴィレッジ発行:16000円:上のホームページから購入可能)をご覧ください。カラー写真中心の読みやすいとてもきれいな本です。印象に残ったのは、バリさんが、日本人は、センス・オブ・ビューティーに基づくサービスは世界一だ、と書いておられる文章です。詳しくはこの本を読んで欲しいのですが、こういった日本人のすばらしさは欠点も含めて、バングラデシュなどのような日本と利害関係がほとんど無い外国の方から見ないと気がつかないと思いました。



2003年訪問時